

脱退強要事件 を一回調査開かれる 6/21 千葉県 地労委

車務課長河野による組合脱退工作を許すな

六月二一日、反動車務課長河野による千葉運転区K君に対する組合脱退強要事件の不当労働行為救済申したて地労委第一回調査が開催された。

この事件は、K君が国鉄時代からの出向から現場に復帰するにあたって、「面接」と称して二回にわたって運行部（当時）に呼びつけ、「動労千葉を脱退する意志を示せば元職場に帰す」と長時間に及ぶ脱退強要をおこない、しかも、「面接」の後、鉄道労連革マルの千葉地本事務所に行くようにしむけ、動労千葉脱退、鉄道労連への加入を強要するという悪質なものである。

組合つぶしの主謀者＝河野

河野は、この間の狙いうちの強制配転、全くデタラメな度を越した強権的職場支配、不当処分賃金差別など、ありとあらゆる組合つぶしの先頭にたち、陣頭指揮をとってきた人物である。脱退強要についても、K君の例のみならず、われわれが把握している事例だけでも十指にあまるものがある。

しかも、このような違法行為を、JR幹部でありながら、革マル松崎と手を組んでおこなうという前代未聞の悪質職制である。まさに、動労千葉や国労をつぶすためには、違法行為もいとわず、列車の安全な運行の確保よりも労務政策を優先する、というのが河野に示される現在のJR東日本の経営姿勢である。

しかも、断じて許せないことには、河野はこの地労委申したて（4/28）以降も、反省するどころか違法行為をし続け、現在も、京葉線新習志野派出、幕張電車区、千葉車掌区などで組合つぶし、組合分裂工作をおこなっているのだ。

ウソでぬり固め、
脱退強要の事実を否定

千葉支社は、われわれが指摘した不当労働行為の事実をことごとく否定さり、ウソでぬり固めた答弁書を提出している。

しかし、河野は六月二一日の第一回調査に、当事者でありながら欠席するという全く自身のない卑劣なやり方で逃げかくれしている。われわれは、地労委の場に河野をひきずり出し、事実を事実として全面的に明らかにする決意である。

弁護団が当局を厳しく追及

当日、平行して闘いぬかれた館山駅でのストライキと連帯して、地労委闘争に立ちあがった各支部の代表団は、十五時より千葉駅頭において反動車務課長を弾劾する街頭宣伝を展開、街宣・地労委を合わせ四五名の仲間が怒りを新たに決起した。かけつけてくれた四名の弁護団は、JR側より提出された「河野自身を被申立人にはしないでくれ」との主張に対し、断固とした反論を展開、中野委員長及びK君本人の証人調べの申請をおこなった。

総括集会では、山口副委員長が、「これはK君ひとりの問題ではなく全組合員の問題だ。河野を追放するまで闘おう」と提起、圧倒的な拍手でこの日の闘いを終了した。



地労委の前に、千葉駅頭での街宣を行う。